

会津かるた

聴覚・視覚・触覚で伝える会津の魅力

A2201513 小松 康貴

研究の背景

若松城、伊佐須美神社、大内宿など、会津地域を代表する名所に会津に住んでいる人々は何度も足を運んだことがあるだろうか。また歴史や文化について詳しく知っているだろうか。その場所に身近に住んでいる人ほど詳しく知らないものだ。そこで会津の歴史や文化を伝えるツールとして、子供のときから会津に親しみを持たせるために、会津の歴史や文化が詰まったかるたの制作を行った。かるたには、典型的ないろはかるたや郷土かるた(群馬県の上毛かるたなど郷土の人物・歴史・文化を伝える)など様々な種類がある。また、教育面でも、集中力や記憶力の向上やひらがなを覚えるといった効果も期待できる。かるたの表面には会津木綿の柄を表現要素の一つとして用いている。さらに、かるたの裏面や絵札に、会津木綿を使用して直接肌で感じてほしいと考えた。今後の会津地域を支えていく子供たちに、かるたを通して遊びながら会津を知ること、郷土に親しみがもてるようにしたいと考えている。

研究の目的

会津を題材にしたかるたの制作を行う。かるたは、子供が読み札を記憶することで、会津の歴史や文化を自然に学ぶことができる。また、子供の教育にも良く、聞くことで集中力の向上につながることや、語彙力の向上を促すことができる。子供が視覚や聴覚を使って会津について知るきっかけをつくる。さらに伝統工芸品である会津木綿を使用することで、触覚で会津木綿独特の手触りを感じてほしい。さらに会津木綿の丈夫な特性を活かし、子供が乱暴にかるたを扱ってもある程度の強度を保つために裏面に会津木綿をかるたの素材として用いた。子供たちがかるたで、遊んで会津の魅力を知ってもらうことで子供たちの郷土愛を育みたい。

研究のプロセス

1、かるたの題材決定

「若松城」「伊佐須美神社」「大内宿」の三種類の案にしぼった。三種類の共通点は会津の歴史や文化にとって重要な場所。

2、読み札のための調査と作成

題材となった資料を調べ、不明な点は現地に行って調査をした。

3、絵札のデザインを進める

絵札のデザインは、会津木綿の柄を表現の要素の一つとして用い、絵札の絵に合うようないろいろな柄の木綿を選択した。絵札のデザインには会津木綿を全面に用いている。

4、箱の制作

三種類のかるたを納める箱の制作。かるたの題材に合わせ会津木綿の落ち着いた色で制作した。

成果物(完成作品)

<かるたの仕様>

縦 80・横 70cm 44音 かるたの題材×3セット

<かるたの題材>

「若松城」: 歴代城主や若松城のはじまりから会津戦争で終わりを迎えるまでの歴史を伝える。場所→会津若松

「伊佐須美神社」: 神社の歴史や成り立ちや様々な祭事を伝える。場所→会津美里町

「大内宿」: 宿場町としての暮らしや風景を伝える。場所→下郷町

<かるたの表面デザイン>

表面のデザインは会津木綿の柄を表現要素の一つとして用いている。木綿それぞれが持っている柄の特徴が活きるようなデザイン構成にした。

<かるたの裏面デザイン>

子供が乱暴に使用してもある程度の強度を保つために会津木綿をかるたの素材として用いた。木綿の柄は全て同じではなく、「あ」段から「お」段の母音ごとに5色で統一している(子供が並べ替えるときにひらがなを勉強させるため)。

<実際に絵札のデザインに使った会津木綿の柄>



考察

子供たちにとって会津に親しみが持て、誇れるようなデザインを研究してきた。全体的に落ち着いたデザインになり、会津木綿の独特の存在感によって会津らしさが前面に出た「会津かるた」となった。また、かるたを遊びながら三つの感覚(聴覚・視覚・触覚)によって会津の魅力を伝えられたのは良かった。しかし、かるたで会津の魅力を伝えるにはもっと題材を増やすことが必要だったが、テーマ設定及び調査が決められず紆余曲折してしまったことが本研究の最大の反省点である。